# 續孫桑毛編

下

へ遠13
1164
31

特
へ13
1164
31

岐阜県立図書館
未定

海野信義蔵書

續膝栗毛四編 十卷

東武 十返舍一九著

赤坂の宿近き松原よりかうるふ。草鞋
ものもう声くようようとひつれて坂をかけあがるうち
ようやくて「ハ」水曾のかけ「ト」右田よりはし。碓井
峠よりヤケレ。軽井沢。ヤカトコリ。ヨウイトサ。コノなんでもセイ
「ハ」内ようどよりて「モモ」付んさいろ。其ま。茶ア。茶うて
ツクリ。ちまちの。ちまの。ちまの。
おまつ。見ます。ア、あいとこまつ。ぷくやらうそ。

とうさんりゝ何時ぞの アイ。ゐんどゝ紙でゐるぞう。
あまんまゝ世ぬう 其 ものゝ ゝ ゝ

年月
日
於
江戸
風や
玉秀の輝

やろう（男）「ばくあっけさとこいろうせるぺ十ぬてもろぞぬ
なァ（張）「イヤそんなぐぷ九百ぬ十でもを行ふろ（男）「そ其のん
ことでやせどとぶるんよぷ。九百五十よまろうめんでやろ
ぞろト（みかとときて小銭九百五十文さー出そとぼけるあところより
駄繰ひとろ出そうぞそとそぶぷよとろてちがろくひのこう
ちろー「コリヤ山かぬいとぬぞやろ気ぼくひぷやろくて
こまさろせ（張）「ドレくろるんろもいるんちぞぞトぬよ
ろてこれがぞうこあくあるもこれいぬーぼとおりの（男）「ハイくさいれハト
ぬぞぞろるもをうけとろ又ちろよ出てやると
ぬぞぞて夫まいい銭をこ。（張）「
ちや代をおきて出そやくく（張）「九百五十とんもとの銭ぞ。

ちろー小銭ぞけ役害ものぞぷ。小八そのぬろー元
包の中へ入まそぬろそこまろく（ぬ）「ち郭ケなとを。
それへいぷどぬ合点ぞいろ移へぷおめくそのろもを
入せるぷドレくコリヤまんざとなりのぐぷ今のやろ
めがぷどぬやろおろー駄もつ元をちやァぞろぞぷコリヤア
ぬろちぬ玉の種とぬろそぬそぞろりかくこれさ
のぞもちれ移へ（張）「ヤこくぷそぬらへがるろどぷちぬろが
ぬのやろるや移とぬろてぬさおぞへ移へぷらぬくま

しいおいつめへどろちのそうくいきをーアがつこと
きものをつぶしてそとへうみ出しーあこ
くちもんへぜ笑い反中あそ家そのあるとおんぜそうまくをりつと
きこうこうすこうこうこう

これよ狗張りうんげせよけり

「ハヽ」狂言あるめへよ。とるとこぞいつて。

その紅葉でやるぞ。さぐるやうてやるがい。素を

ととさまア移へまよ「はい」おりへがいめへまい。

イヤアレヽむうふへ褥をうんでらヽ男が怪よ今の

あつぢやア移へう「ハヽ」ホンニしろつぢがよヽ似てゐる

とへ「はい」ちげまヽおいつぢヽといちめうんよ

「コノやろうめがト」はうそつきそのまゝとるとさき の男びつくり

ゆうかるひやヽぐゝげヽ わうみて

ゆうそのあとまとあうはうり「はい」アイタヽヽさきの男「コリヤ」なんでや。

とまよ行をはぶうくさせと「はい」トいふ旅をうんれがそのんでは

「おまちあつぢつぢ」ぬんなのせへ。おうげであるとまが

うんといふと目の玉が赤申のわうへ飛出ーぞア、

りそへくトこでとのひつもくわどよ抜康川

おのとまーとうふよりうう

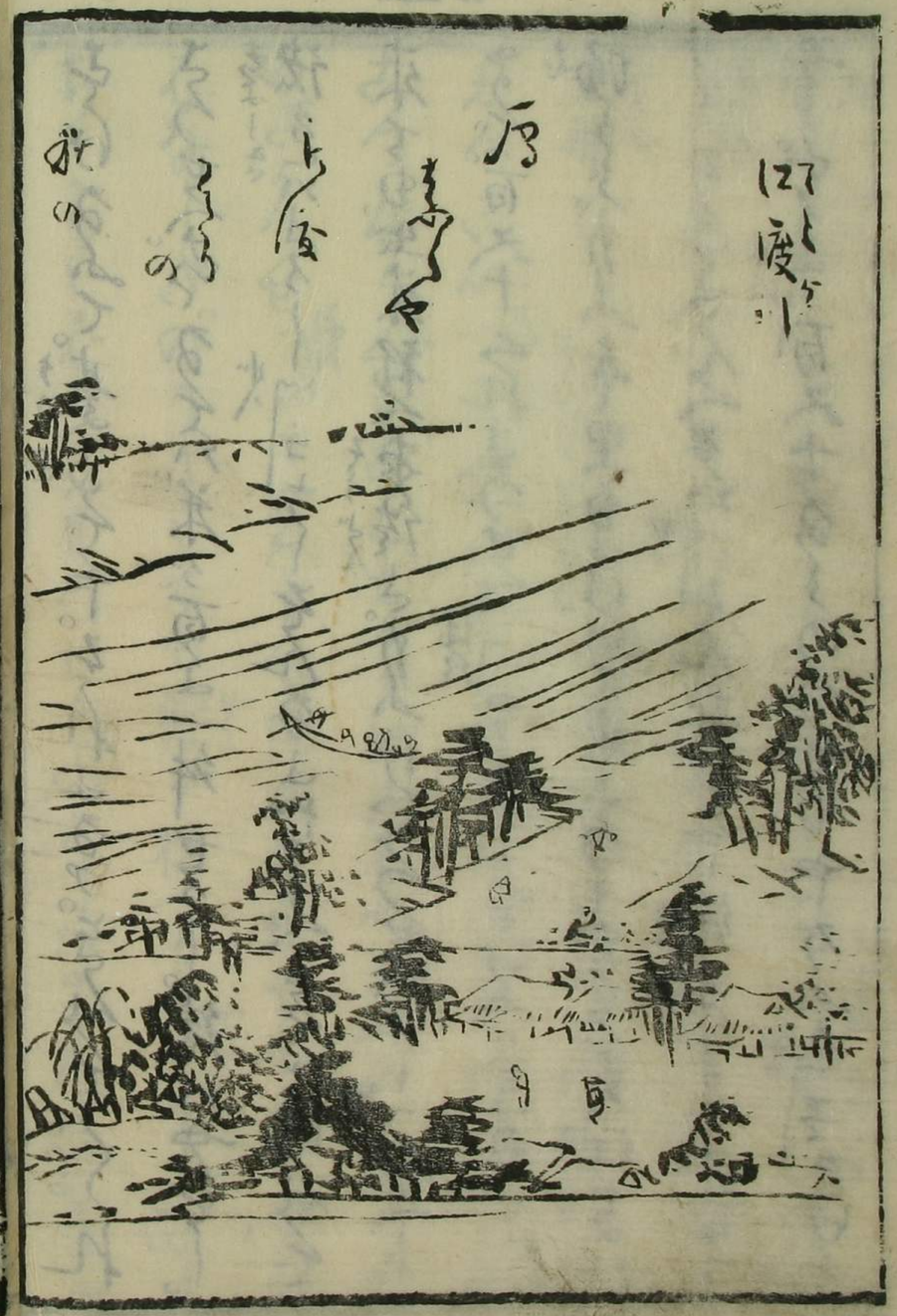
まるやどのるまよ先非を抜康川

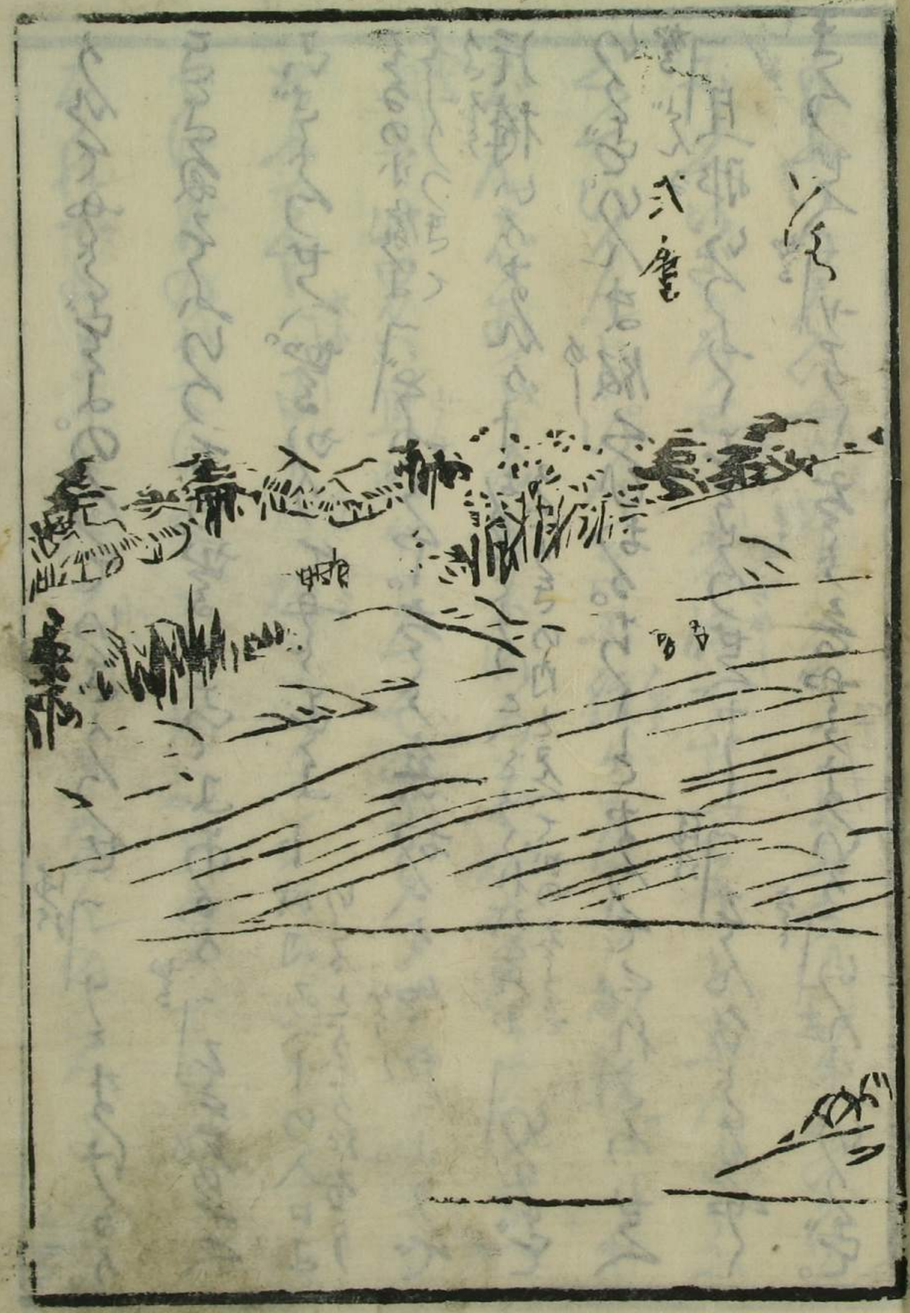
ゆくのとまーのろくでるれ議

ぢそ志のとまーをむうへ去ゆると「モを」日一形さ多。

なるほどよいう。ほそうしていうぞよなア。侍なるハ踏ひざ
ハテ。そのいうろうせざとナ。のうそうれさうせへこしく
且那くトふうのほそうるきさいてきさうる。少ハ。そいうう移へとうのふ
まうさん。書。そのでれあうぞうこーどの隙じやふ。
さうなりうとざこことぶでけんうん。どのぞ。のそのうて
いざううせ。侍ハテどこまではんそ来ても むぶるな
さるーぶのりうーても。殘が移へうう。書。ちがんよ
ちくらくだしいうん。せるよとーハやんざとうぶ

そけるふて。墓るまでや。それるなア。さんそくれ
さうせへぶるるのそハ。茶が百よ一斗せるし。殘ハやもと。
法名ハうーー。コレくそんるよなうぶくそはんそ
来ても。出来稼へ。お待ざ。ふけうせへ。ーー。書。みへぶ
まで。百文十ムれさうせへ。侍。そんごとをいふざさるとど
場うぶのハ。書里も はいて来さうう。吳江ちるハ
ツイそそるさんへるハ。書。そんなうるー郷戸まで。百文
やうぶろ。百文十るのうそもやろふ。書。そまけ





うんてやらぞよのうていぞうせ（ほう）ナこまけるう。
きさるぞそふいうても。（ぞう）るがたてよあるう（ぞう）そこのそこへ
ぞいざうらせ、（ぞう）りかりてやらぞよト（ぞう）は門みへトの入口よりるとうどうぞうだう
（ぞう）るのの小家よ（ぞう）どふでや。たうらう兵衛（ひょうえ）のうどの戸（とう）まりで
（ぞう）片梅（かたうめ）いうまんうトおりてこへをくれば（ぞう）これやこれ（ぞう）いうどぞ
うどうきのの門と見てがのたうらう兵
いうどぞいんま服（ふく）らひあるぞちくとまうそこれさうせ
（ぞう）且那（だんな）いうぞくとうらうせ（ぞう）ます（ぞう）そんなうたやく
きうせ（ぞう）ツアノ（ぞう）たうと云やうまいうぞ（ぞう）いんまいうぞ。

りふいうたいりかうそ（ぞう）よふこひあるぞいうげん
（ぞう）そいざうらせ（ぞう）麦服（むぎふく）でや。あうとふんざふ
いうていうんとぞいうきふ猿（さる）が居りあ来。コリヤ
だんだあどのぞふいうたんこまさうせ
（ぞう）エそれ男（だんな）旦那（だんな）がまうそこざうらせるぞのでや
どのでや（ぞう）コリヤ（ぞう）行（ぎょう）梅（うめ）のいうどここアいうどぞ。（あ）よ
でけりのがでけて。あるたあるとがでけぬんが。
それでもようぞ（ぞう）ぼう（ぼう）ふうなんのこんさ。（ぞう）鳶（とび）

皐がある。ゆを祝へしやァ時まで祝へ。そん
なりや。そなりの珍敷ものをしのまゝゼト又は一ぱいの内さし
のぞき。どんでや福七。お月々戸ゆて片摺いろ
まんろ。いろぞく。いんま服ろそいろぞ。そ又
服ろ。コリヤア。ん。ぢまろ祝へ。ぢゆ。祝いよろふまよふ
イヤそんなりやくろまんぴつきふいろぞく
ふく七お月の祝ゆかふまんろ。ヨ。かゝて中ぶだ
まろ。コヒー不の祝いか。底がぬけておろぶ。それでも

よろふぞろ。底ぐふおいろふてもよろらぞ
ナニそんぞよ。底の祝へ祝ふ主るりのろ
ゆ祝へひゆろふれどもぞ。孤吉正よあら
ぞよ。サア且那さま。ごそ〳〵とごぞろせへまし
トりみ出して中ぢりさそ〳〵サアのろせへまし
ゆろくとりごをりみ出して中
ふるるのハゆふ。ぶんまが相撲どのぶぞそろも
祝へびつとゑんくる。それでも祝ぶかろうれよろ
うきゆせぞども。おそぶんこゝアちぶざろまん

（侍）イヤ　ぞうびとまやこてのりまくかうこ（下）のり
ぬくんこさアちぐひいるうこぞ。まんぞうして
のうていざうこせます（侍）まうへへんらなる
見まあぶぞふぞもうこまこさ移へよふおやうてこざ
せへト（ぞうちのれがぞくれの毫ざれぞうかあくしびうこの
とうればぐこひしとしてはいと大きまのりざうこるく）
まうを（コリ）アア　あぶ移へ撃ぶぞさみのこりんゾレく
いあて
めうとまうちぐへよんうて。左の言れうへがこまし
ふんぐけてあまぐのう。それで弱合ぐよくまうさ

（あまぐ）ソレ左ぐるかくぐ（下）ヨくサ　ぎあやうちじや
ト　ぎんあーのうこよけうまれば左の地形（ぢげ）うくみど
うきあーのうさいよくひくううぐかようこをこうう
うま（侍）コリヤくぐぞふこるくぐ。おうこちそふぐ
（侍）おちくふまくこのうこうせます（侍）イヤこのうこうう
も。移へもつぐト（ときむそぐこのぐの中かこうと）（侍）あうこ
（ぶちそべきまこーのうはをうち）
あのうくくぐ。ヨ（コリヤ）うねくぐさうこをふかく
まををてうさんぐうふまやアがうてぐぞこんま
びうこめふうぐせて。おうこまこまやアがんさ

猿松めが「せどどこぶるんぴどこぞぶろうせくろ
「ぶろうさ」「ア」「ア」「移へぴてくてるら移へぴめへ
まんめろぐ「トくたくろくちちぎれは」「あとぐうの「コリヤ
ぐふさうせる「トつろをつくとつきさをーいきづくをとろそくくハ
かくるを小八ところてつれとぐたそのうちあとぐうのあぐちぼぼくくは
ちくろくうぐくれてふーくをれ「ウこくとうめれぐーてかろ田ろくぶも
ちぐふけこるりくるーむてんはおうう近ぎのりのどもおひ
おひくりけのつもり「ほぼくをとうもくくてけもひのもぐちとうひろ
をくはよをのろくるれ「コリヤをまんぞくお梅よ
ぐひくくセくはのきう中
大きる怪我を出くろかんさ「そべうぬりせ。

うぬふぐ満足でも移へるり紙をヤアがつて。
智るり紙もをるぐじんぴなぜおくがつれをあつこ
をくく「「あいくもあだて骨をあーあつををふみ。
あいくくくトつぐごとうれを小八ハいくくくくくを出けてだりをを
くくををぎひおさめんとをる内ぐうれいまぐれは新のいろくりて。
るーむやうをよをくきろけよあくとをちさろげばばを
きもと「コリヤりあぴぐれよたりやんよるんり。
つぐけ怪我をくくくくぐくぐくぐるくもそをを
ようくくも我をヤヤをトおーをれて出けさるふ。
あとつけをぐりくく

乃


下
ぬ
酒
の南
魯

ゆびかれば、ほそいろ〳〵ところのひとがつゆ〳〵代よ「是ハ
なんつゆのひとろ出して、ゆ〳〵ぢらさまさまければ
どろのさもおせらで、ござん、ゆ〳〵さ、サア〳〵小ハ
ん、ゆくいろふト、むせつゆよ「コレサ、ゆ小ハ、ゆけのいぶさそ、ゆ瀬ぶろ。
そんなよゆげぶとこさゃ、稼へ「イヤサ、ん、ゆ〳〵
ゆ、さろせ〳〵、逆出さそふか、沢があるト、ゆ〳〵七ハ十もそをりまると
「なんのろさ、入沙、ゆ、ひとろ、ぶそれて。おめへ、
ろどもで、ゆ〳〵る、ゆ、ぶあるろ、なんの、ゆ、稼へでもい
かるよのつろろのエとぶ。だろ〳〵ん「ハ〳〵〳〵〳〵

ゆ〳〵がぬろ〳〵、稼へ、と、沢、ん、さろ、し。膏、茶、代、ふ
ゆ、ろ、さ、武、朱、ゆ、さ、ろ、さの、胴、孫。それぶろ、ゆ、むせ、に
ゆけ、出、さのぶ。ぶろ、て、即、席、よ、ん、ゆ、ち、ゑ、ぶ
出、ゆ、ゆ。ハ〳〵〳〵。念、の、ゆ、ある、改、て、ん、ゆ、ウト、ふ、ところの、金を、ゆ、て、
ひ、ろ〳〵、ゆ、ゆ、ん、れ、ば、ゆ、ろ、ん、ゆ、ん、ろ、ん、ゆ、ん、ろ、ん、ゆ、ん

駕の内こうけそ[illegible]る怪我よりも
只そこ〳〵まこる式朱さいさごと
かくて出る遠ひよいとで氣もあさぢつぢうくと
糸ぬた柚木川を打る。郷戸のひさ〳〵ふさ〳〵かり
ひさ〳〵ぢ西の山の端よ日影傾き。おのづうう道
ゆく人も見だやるるよ。おこ「ま」て殺さりハあれくと
たどる跡うう。浪人めたしるふうづきいづまも
髮髭ぢうくとて。眼ざ[illegible]きて[illegible]張つた。[illegible]

乃んべうものくあうぐたるを引たり。柄糸物
大小をさ〳〵。老人ハ鉄の銅金入る大根巻をよと
たべ。ぢーの色を賞頁未るが。銅をかけて「ライく
きさ[illegible]こちハ乃どものじぶ拉。おうもづうくよどう
ぜんぢたるーながゝゆくべん。待るさろ「ハイ
あれさがこも乃どう稼「ナニ江戸近遠ぢぶおつちの
ちうへハ法〳〵生〳〵をさるエぶるう稼〳〵ろけで。
ひさ〳〵ろ稼人がさ[illegible]こちハ何う。侍芽糸

宮ふ。俳人ハ高ひ用で旅行ふ。高賣ハ何をさう
ある「イエ」りふ。高賣ハ高ぎ高ぎ高ぎふさやぱ。旅人の
とをりの風俗。ぱまふ。ぱ。ぱ。ぱ

ちろ〳〵ぶ。ゑんぶ〳〵拍子とへみろ〳〵ぶ。合ゐ手
天六十だう〳〵持てゐるゆうを。青野ぶ系で。ゐい
同よしろ〳〵ぶつ。けとりや。たゝら肩骨〳〵
大げさまゆり。ゆ〳〵うれさとおゆひゐろ〳〵。存の外
りろさんよ逃出〳〵けつ。ゆつてぐんくまこんらしゐ〳〵
うんさんぶ〳〵でも大津の住ゆう〳〵。君のそゝ祢
ゐろ〳〵のどやト伝のゐんてもよゆゐく。大ごへゐげその本路。必八へ
ゐろ〳〵。ぶぶぞ〳〵てさんぶ。さんと。ぶ〳〵のそぞきひくよ。ぶ〳〵へ又この
ゐのどもぶ。ゐゆれよろとゆ〳〵。ぶ〳〵ゐ〳〵。ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵を

おめひみぐゝさんどもさやうと浪人ハ〳〵ちあんぐさんざ
ようをさんせどとぐさくみるひぐゝ
ゆ高賣ぐゝ拍ごろちゝゆ泡防こそまやせあが。
年中旅をあるひて。ぶの中でもよる夜中。独で
あるれやそうゝ。ちゝさんとのふとハ移ゝうゝ走り
やさんが。中みハそどめて旅をさるゆ合ゝ。ちあく
ぐさのいふやうるとハ沢いろてきうせさゝ。さぞおそろし
がるでござりやせうゝごろちゝふとんをふ暫寄ま。
腹がよさんゝても。剣術ハ滅法流のゆゝとそろ男。

まさうの時ハ百人でも千人でも。造作ハ移ゝそとく
いろちやア大風るものさゝ〳〵浪人イヤさまま
さんれせる男ぐ。今夜ハ同宿してさるそふろ〳〵エ
コレサ伊さんもそくるゝ。ゆゝと急ぎみせんな浪人〳〵
伊さの人ハ。大分ちいふを氣きひがるやうさぐ。ナア
たゝの志さ。さきさるゆちのよふ拍ものよ。用をかけ
ものゝ。隔心ゝよ同宿ごろちあん。加納ハ糟田やぐ
ようろうそといろちよとまうちあれコレ伊吉。

ささ屋へ今のこと沢。塩梅よくもうて。跡ゑ〜糟田屋へ
来さう来ん「ヲウト」おもうちく〜ト何のもう張合もとさもあひ。
ひとりあとへさがるとかの侍人はあるよ打つれもちやるよほたい
今の何とぞしてぱらうみんとおりひいろく〜ふうさらぐ
そうさんとさるまどく〜らうみんりめつれおとひてどやかくさる
うちかるのの来ゑくよりるとあるうんのさこどやうう。
女「おとまり」じやござうりませぬう。もうあり
侍人「イヤ」いつぱる拍。糟田やへゆくのざ「女」のとこやか
ちまでおざりまさるよ「侍人」ホンニ古ざく〜サア〜
少人「そうぐうまやま。「イヤ」ちうちゃ。ちとさるへ

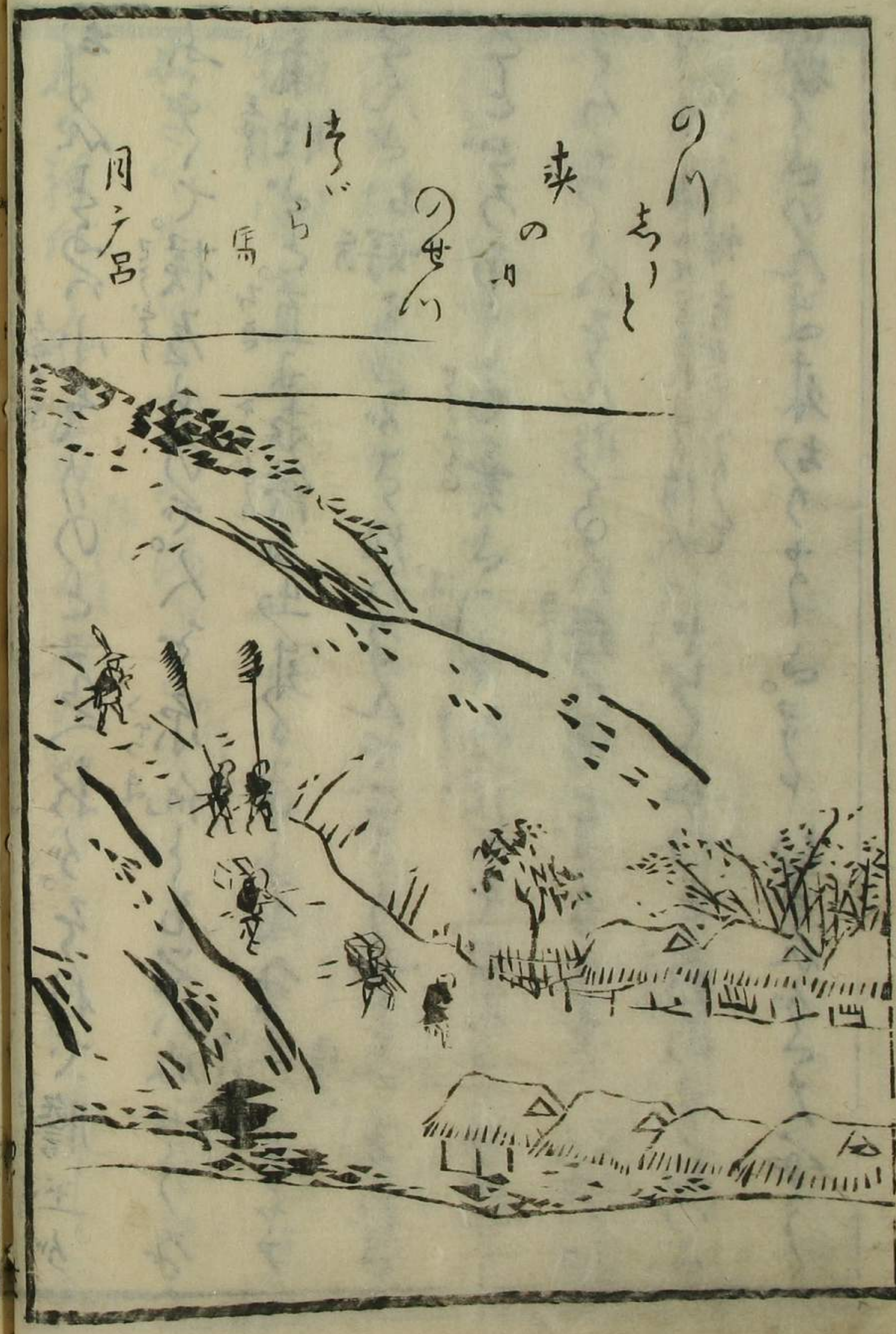
ゆうて酒りやせ。「侍人」ゆうさ屋そふう
「女」モシイナ。おうまさ屋へ酒ろとおへ来ゆるホサア〜
お出やんうく〜トふうりをむり「下男」見かうよ酒で
ござりまさと。コリヤ〜おうあ。おーの古墨ぶようう
「女」ナアちうちイお出ちいうト「侍人」あんすんしておく〜つまと
白くまふうりもだんこまり
行ゑを「侍人」コリヤ女中。おざひとり沢うう来おれ元
き方
つけて下さん「女」ハイ〜おむうひでゆ出〜ませぶう
「侍人」イヤ〜あの内へさ〜て来おる若ざ「女」ちぐふ

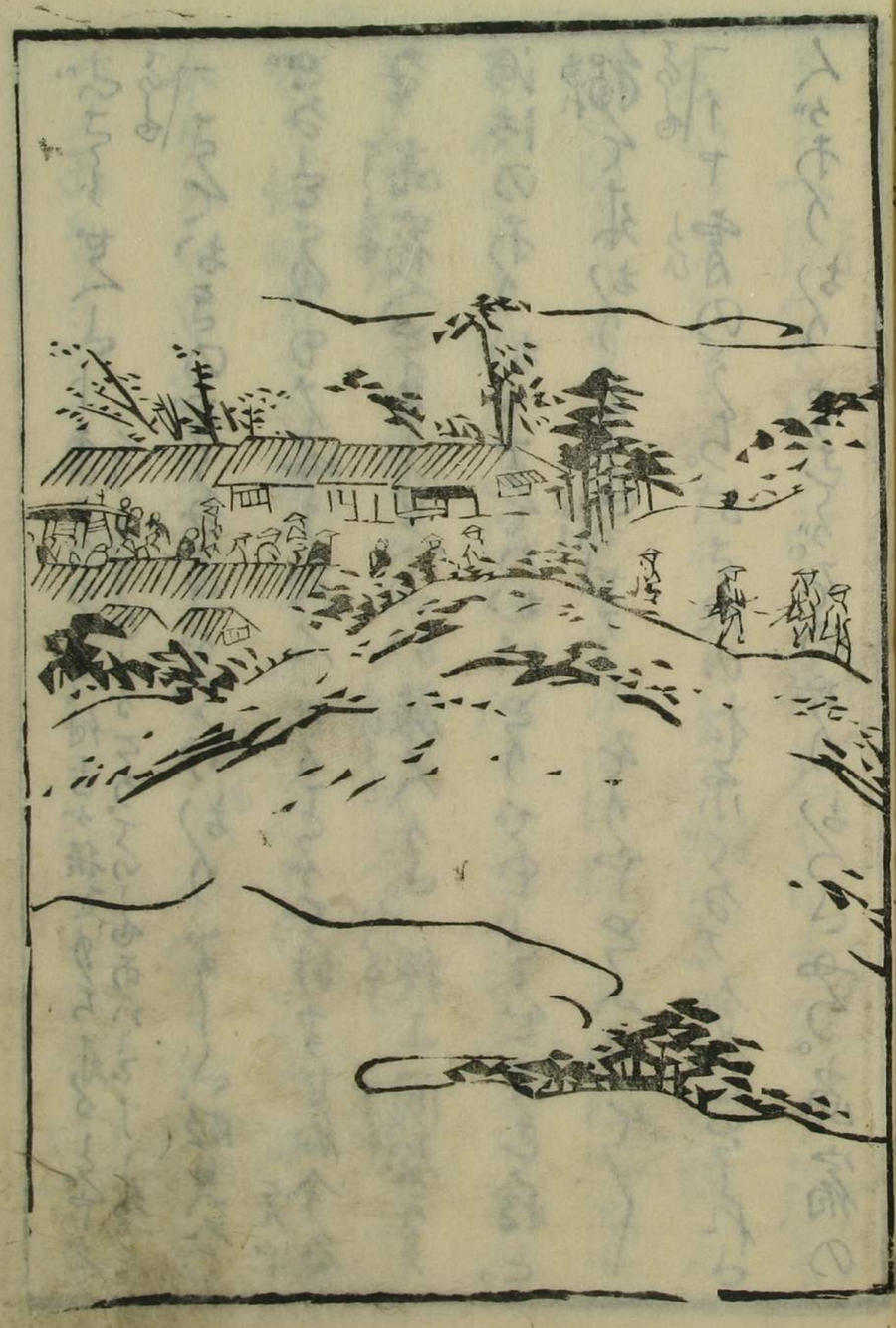
お鼠、おあしをさりやす。浪人ザアをさるゝさら
湯をどふぶ。浪人きづくあれさ。浪人ドリヤおさえへ
まんろくゝゝ。小ハコリヤどんざものと頂戴
あとあて
ゝさおり。弱くも稼へぞんのたゝせべいてとふ。
ちめ（こんさあう。よ。掛もふあつさうつけこまれ
かぞりや今夜きよつぴゝうつうゝと稼ゝまた
きる稼へぜ。浪人おのんのやまゝとぶあるものざちまも
そかいちゝんゝさぶあゝゝよ。弱ををんせてつまる

ものぶとへ。濃ケの底ぶろうぶ。どろぶろうぶ。
ゝろちかきゝさてゝめんの旅人。何も姐ゝ稼へ
ゝる。少それざとうて。氣味のゝろんト。ゝゝのうちかの浪人ゆう
あぐり。サアぶゝつせへ。ゝゝい湯ざよト。ゝゝうゝゝ。ゝゝへ入きまうゝ。
ゝて。ゝゝよう。猪の出て。きゝく。浪人ナントさゝゝ。ゝゝ。ゝゝ
ゝまひゝぶひよ。打ゝろゝだて。
稼へ。身の上ぶといたゝまゝ。ゝゝぶ。幸ゝゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ。

やうれものでもやく[侍]ヲくサさきあのうんきうそ。眼
つれがさう弱くしてどふ小盗でのきそかな新
つれ。赤さのりいざざめて酒のあのぶろう[侍]まそき。
酒い大好物でおざりやを[侍]ツリヤよういとぶ。きろ
酒も酔て寝るやうじゃアけまち弱く。呑い呑わど。
[侍]性骨がふちくあつてぜうくい酒乳でもろた。
ぬきでもさるやうな酒ぶと。云ふき弱くさ[侍]それも
きう弱いしやせ[侍]それいふよくさのりしお。

おりんとふい小元ものとうえ[侍]おが。それで膳王が
ふとくて。横巾ものでぺ人を糸仇ともいぬやうな
氣性ぶと。直ぐお徒が出るるぶよるア[侍]ツリヤア
そんざお好そぶがされかるんでござりやを[侍]きれさ
ことどろう毒ぶ[侍]ちを理そそどろうも弱く
ろちくそんぶるのい嬉ひでぶりやをトんるーの
せんそくをよてろれる[侍]人。[侍]ヤレくやうと易あうもつさ。
あつれ。体吉きうりて
釈うさいんまなりまりさ。コリヤもまんぶさんやう


のかちと
夾の小
のせい
清ばら
馬
用戸呂



ざいさう せんさと あいさつのこと。仲吉が宿をもちまるとやどの
うへ ちまひしるところでいつもあいこと、ありそこ
さそおきのぞくみるのがでけ ありまする。昼日なるア。
どるーさうもたんあうたらつせるとこがでけませね。今夜
なア。常宿へどまるせんさお旅人がさ。続よ同屋うう
泊法のあり ありまるまでいおひとりでもこせまさねと。
紹て来ありまるこ ヤアヤ そりやとふーそく
イヤ 宵のうちに出されの松原でなア。金をとられさ
人がありありまさでが。その とりあうさ。常宿の

うちへ泊つておりがとと。旅籠や中者彩くの強気
去ありまさこのるでなア。その海 ありまでへ。旅人
がこひとりもこつせるとがでけ ありませね。
それがこうのエとが。体法さんコリヤどふとる。
まるとこそ。こちとこそんるいさくこのあるものどやア
なー。何時立ても撫ひそふもるんものがこうそのる。
今ううさとがよ出立去こうふ ソリヤ なこ まいく。
ハテあるこがこようがこそ。そんるこのあうこと

ことわざ牙が笑もぎゆうちゝてゐるでや。お芋が
すけとやがんとおそがんとゐるゝとぞふみア。
おちつゝせへておざゞせへすトいひそてかゝてへ
もくゝ使言あとゝろ
ようゝつゝ紋あめんじ生の紋布を出してこんをうけ
ゝ。狐ゝこいんまのえ狐ゝ
そでやゝ人ゝ。出ゝ。コレんさゝ。せへ。今ゝこの
亭主がゝつゝこれはるゞ。あゝこの宿ゝゝはけて来さ
旅人をゞ男ゝ夫ゝてゝせゝ紋布。コリヤゝゝゝゝと
あゝゞゝゝト紋布をひゝくゝゝゝゝ

ちちひとりで。俺よりうさぎうこむとあまるてゐる。
マア何のかしらぶんまりでぶんて居さろせ。さうとも
素人とりのすいわ。小氣みものざ。氣きしせざと。
酒でもいろたい呑んでやア移へ。イエすみ酒も
喉へかさりやせ。ハヽヽヽきさねさちぶどろ
子よ仙合るん氣の弱ひエをいふかまわざとりか。
移さろ赤い〳〵ざかして見が移〳〵まつ新ものど。
るんぶろころちらアあるろて居る

おろでろ。ものも蔵ちつけ。ちゑもせねト此門ト女さうイ。ものか
おろげるさろます。お床まろ死まりせざるト夜ばいをしてびて
ひこきさろ。くとらう人ものかろころのさろこ。ナニト
移るようもやく〳〵言るいびき。ほにかハハ移ろうもゆろば。
泳にさんんるせへのぶとれもろじやアねくるアノ
ごろせへる鼾か。ホことんざめるあるぶるんぶ
あんつろがあんるふいろうとも。一而よ未さとしの
ものんぶろるぶ。よ紀ぞへよあろちやアけきろ移へぶつ矣
こと。おろアろこの内をぬけて出よふろ。あけ

出をのぶ。おいらかく さえ〳〵 逆出よあ〳〵 イヤくるまだろし。
逆出を紙ふくつけられて。どふうもつらがうさん
くさくおもわれまして。給仕疑ひを受るやう紙のめざが
「それゆえあじゃが。全体 ほんさん。おれ〳〵がうりん
「ほう」 とうりんとうて。おくぶ 稲〳〵おんなこまつさるの
稲〳〵 ト あるいきしゐ稲のめぐり まてゐる所へ下女をり来り
「モシイ お客さま。間屋の
女人さま ござる ト 出ましる。
「ヤ さてさて男さまはよくとうて。みな六人づれ。どやく ざ
てうりんをとの。 「ハ 小ハ リヤ

ゴレハ 松まつ 稲〳〵 ト うろうろして。たばこのあてたりあるて
あげ出し。ふるゆよだろう。はきあるとつぶ〳〵ぶれてゐるく。よ。そなくこれりとさあをつぶ手間。
きさハいりりくさんころけ出し。かつてこうゐるてゐるよだろう
出れ所のさり。中庭へとうげおちるが。「ヲ 今のハ誰でや。」
そのあのくらやつと考えの下へ出ひ所
紙をはぶりうんさト ざ紙へ来れば。このさとぶよ。信人のの
「りんま。 ふうりもめをさまし。おきあるる
出さん 誰でや。人う夜のうのよ
出ますん晩ハるうぶ。それでも宵よ会とうさ
あつぶ。居ホが来まて。モシイ。あるさ方。のふ何時さ
へ上人てもよりござりまさ。 「それハ孫市時さ

諸方打揚ぶてぷくお出、先生めんぴさーくふうで。
宵宿へお出さと。先ん刻傳吉どの、ちちくせでおやうち
いさー。早速お易すと答。事多でかんさおそのう
ちうさ。先ん旧堅勝でおめでとんとでやト（てい弱のまのさ。一所さまりー）
ものもそれくよおいちつし。ことの外モこ旧真下主
うやまひりてるさとのよふくふうくれと
さんぷさろきの金紙どろこがうの外てつま
どりやーさとろくそふでやくくいづれも
ちるさんぷろふ氏元と道連さるつてうう。他の例の旧ぶ

晒蔵で。何でもいやかうして。慶ふと。ちめつて。傳吉の
ちーも。護テの原ろ。追剥でのるとふさ脇く歌を
ちろけて来さ所が。秘ふうけて氣ちひかるやうに。
所でちくの旧亭が氏元の松原で。金をちろまさ
ものがあるといそまさとさいろおそれのおいくが
業のやうよりくうぷ。ちろ元のるれおろぐうちで。
ちんざおりーぶいことでおざろぷ。パくくー傳吉モこ
旅人の金紙取て来おつさとのふてぷ自ふかけさ

財布の性体かられでく〜トいぜんのさいふをふとまろ
おぜんのふくん　ふくん　より出しふるひ出してんさこる
かへ〜おんのうの肥元うと大きよ仏きんさうきと
稼へ〜コノお客さまわるアプロもまうとるしてあつさが。
りんまきうけが者方南西へおざざ〜せへて。親御をれしへ
さうせへさ。先生さまおやとたづめておやうち
去おりおり〜それでみアこれ元の先生さまの弟子
さちさんを近所の元でプロが所よ泊つてさざ〜

せると吹つ見へてさうづ稼へて見へさうせへさうでござう
ゆうとトいさいのさるし。けらうん人りの新よ仏合ぬ。えんざーゆうざん
りのふてさるれ去やれとかいひるうふさのゆうるるさとが
いろうてきふてほけうドハといろうろうるけ。さうアとうろうて。
さてん大ろうひいとるりうろうるけ内けんべ〜とり。先王へちそうえ
会分垂とるんてかつてうりさん　さうるをりちきうろ。ゆうて酒
りとるりうさへつおさへい言でうしさんるーてとうひざめく
あそさ紙不どうろ。ゆ屋のるんの下へたひてをくれねえ〜。きさハ
けさうと紙とさて何ともゆうてんゆうざ。ゆうまかいろふと家の下おく
ふう〜去のびのうろしがそろく〜てひ出よとさる而へ下女さうるる
なちを付よりちあがら。るんゲわをうをりかりーよさきさんゲるんの
下ようあつと首をさー半ようるをんてきりをつがー。さうるだちも
そへそうり生ーうろとりひてざーれへうげたをうふをるく〜おど
ろき　コリヤ　何とてうこそふでやり〜ト　うろてうろてうこぬれ
ども兵ろるくとふるひ

なのねあのつぼ。あのも。コリヤ大ク強ぞよおどさんと
いうれぬやうさてイ
ものでおろう。ホニコロうちの侍さの男ハどさく
いうさやト。ごれをこちらモラーごろうちの
ろうくとかうさんと出
侍さの男ハいうちへ来りやせぬうかがてイエさつ
ちイハさんさろせへよ。せあ。ハテ。とあーさやポハ
さてさハどこへいつさぶハヤアイ〳〵ト。そこへよびこあけ
べがそろうるこうかて
ヲイ。どこでゞく。こてごよく〳〵ト。さあ。こんがるもへ
ほれ〳〵上ようろさんの。ここよるる。ハ〳〵
下をさ。のぞき。

ものも。なぜそんなものしてゐる。サア
出ようく。出そもりふいろ。さまさエよ
人ゆめ。どろ。ぶうめ。ぶりこれていさろ
る。蔵をいたぞと。サア〳〵出ようく。ト山内てのしもな
なんどあるこ
なるほどるんでや。ぶつまさるハどこよござる
せるトいふ。ぶハいさやよ。ちえ出さところ。新ゆかぶども。ちぶけ
ひろうみ。先さんどろのさくさもさ。がちく〳〵ふるひざうろ〳〵して
ゆるくかつき。何ともさとんんるくびしあるよくさるく〳〵
出〳〵コリヤどのでいハ〳〵ハ〳〵べらぶうめがそのあるん

ぼんぢやそこへふんどしもせずに小ヘヲヤくろんぶ。
床の下にとけこそこの中でおぬてきこそ情なんどりふ
ぼたくてものさむくてゐる新くぼたさんどつかそ
おめへ後生ざとうてまあてくま新くろへ情さんといふな。
ナニさうのあれさ。めめへのあつちうんとしてまて
あまへ小ヘあるさが新くでさむくトのけあがりざ新
ゑりとこうどを
ゑやあるまきりめをきて。ぼたりがくふるてゐるぼたりよれ
かの屋へすめのうつるおれあてごがうりといちくもるせがきこへ八
まてあてこそ。おちつれるがさるあそもそれこへはきくたこそ中ゑこて
まんの下へあけくくれ。こるいめをせーとくやしくぼうんとよ小だり

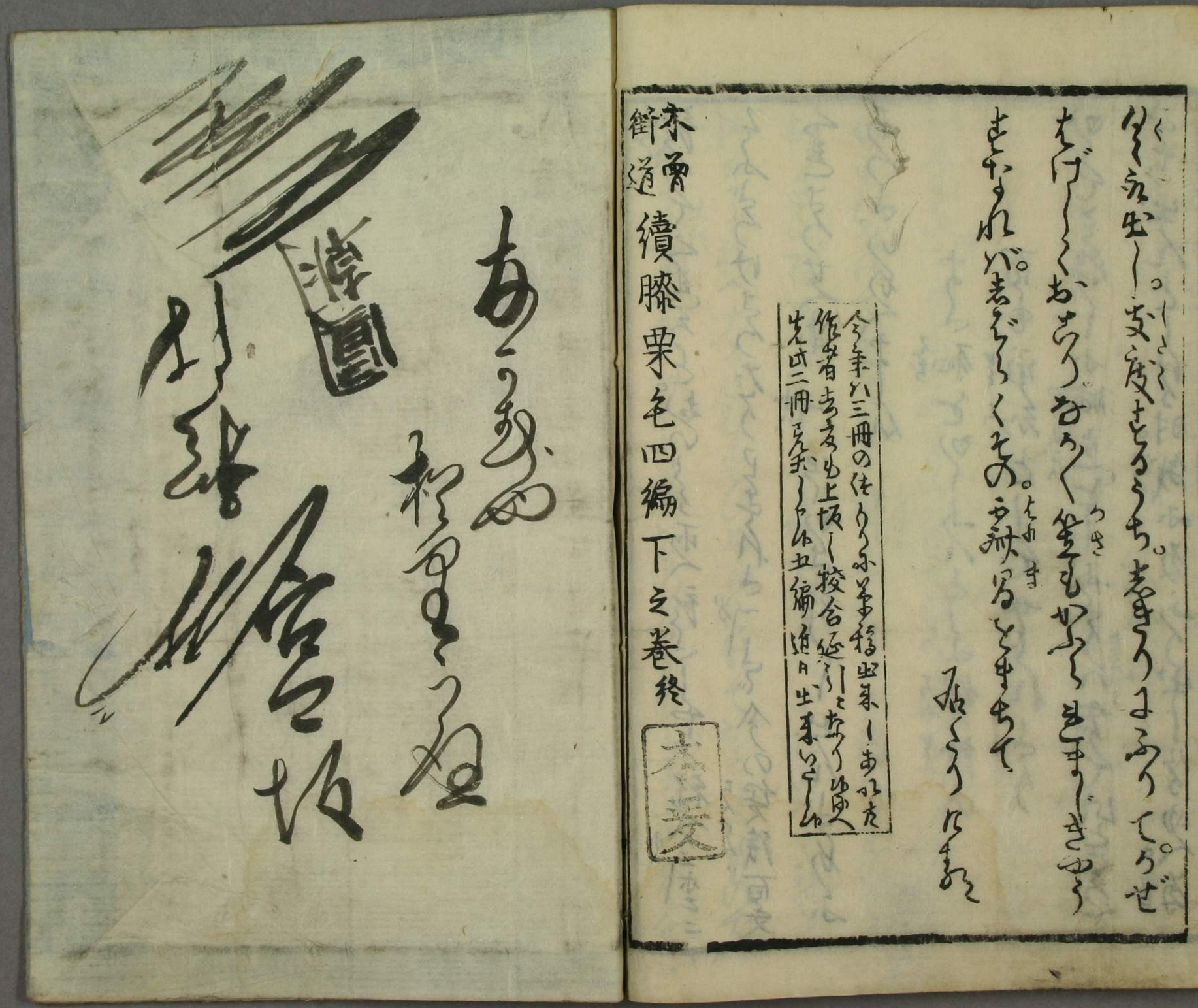
こちらへコリヤア仕まつる稲く見るあつさ。去迎へうまい
おひとご
宝九〻とおもひ人かさもあるて
様のまつやよされハ九をま
まてハ大ひとぶことるうしまるぶ色より又酒〻こうこー
夜もふくるよ皆〻時ちてて立ゆまこバ。跡ハちの〻
寝所へ入てその後打ふるぶんあ〻も者あけて
鶏の告ひるふおどろれおき出て彼色とよ友

まるうちぶハおろうつ仕て「コリヤア仕まつる稲くとご
あるとこ「どふさ「アノあんぞ。どあもうちもうてハ
おれ稲へトおさまこと「おひびるまりよしろ「ヨイ
外のまどヤア稲へが。男元をひとりたのまて「ハイ〻
さあうヤませぞトツウてあくとまろそく「ハイ何ろ仕事が
あろつせるそふな「ヨイ〻ろちぶとりよいきて〻へが。
さふふくてのあどうぶどふぞきまへ貸賃百文てづまー
せうろぶどろて為てあるひてあのがある「なんぞヤ

どこへいたおるでや。少ハ イヤその中庭の樹の下の
ところとれくのわうへぎさるむごうこんでめうひてへ
男 エヽアノ家の下へうる。少ハ そふさそこへ立てまさあぐ
あるうヽ。男 ヤアくそこへあうもるんパヽあそこのそへ
何をおろせまヽ。少ハ ふんどーをとられてまさ。男 コリヤどんでや。おろさ亜とられてござヽせへやヽ。
男 雪隠るヽそこうのてよあうおるよ。樹の下へもろ
しよござヽとせへてぱおてまこうせへさのんでおるだ。

少ハ ナニ猫じやアあるめへし。樹の下へとれよもくあぐ
男 ハヽヽもめへも。蠟油で煮メこあうなふんどーを
そんるよおがることアあ移へだろくヽん。男 イヤそれでも
るのけうふやロ不自由であるざそよるアプーとろて
まてあげませどト。ろてもくいけんたやぜんをのちまるよ。
かの下男まろろようごれしーろうちうふんどーを行のさまん、
男 ハイおあさるのふんどーハ。ぜでやくヽプーけ

褌で中庭へぽいとなげて来ありまして二三度氣の
きろ稼へそつとのりて金ぶら行よ。はよそのあんどへ
くりはけておあさめがある。ドレ〳〵ヤアるいハゴリヤ
ぶあ〳〵さ〳〵るのふをくりつけておあさのご〳〵金糸分を
むをびつけておあろう。褌まち〳〵も稼へがその金ぶ
おさよ。百生てそうて来て貰うさのものくちヤア
はまぶ稼へだくさむをびめがとけておとさのもで
あろう〳〵るのふをいふゾリヤさのふをめくらば糸分を
ぶろうてくまろと。おいらぶ丙へ新さぶヤア稼へろ〳〵ホニ二
そふぶろはけさろだろ見ましたで今の貸殘百文
くまさろせます　〳〵ヤさ稼ぶ〳〵どんざめふ
あろうざあへんん
おさ孤をかくふんとよ貸殘の
百目形知とかとやられさり
かくてこそ行〳〵小時ちとてふろハやぶて山ところを
こち出んとしける時。銭ふ百ふり出り乃ゆ。為



今年八三冊の仕りふ事稽出来しあり方
作者去る頃上板し校合延引と成り筆
先ハ二冊長しとハ丑編迄ハ出来いたし

本曾
街道 續膝栗毛四編下之巻終

大妻